



- 第15号 -

発行/岐阜県立恵那高等学校同窓会
所在地/岐阜県恵那市大井町1023-1
〒509-7201
TEL・FAX: 0573-25-0253
E-mail: c27331@gifu-net.ed.jp
発行責任者 市川 康夫

ボート部 成瀬歩美さん U19世界選手権に出場!

恵那高校ボート部の成瀬歩美さんがU19世界選手権に出場しました。大会はドイツのハンブルグで行われました。結果は20位でしたが、今後も進学先の明治大学でボート競技を続け、東京オリンピックを目指して頑張るそうです。以下は、成瀬さんの世界選手権の報告です。

恵那高等学校ボート部

成瀬 歩美

昨年は世界選手権に出場するにあたり、過分なる激励金をありがとうございました。

国内強化合宿を経てドイツのハンブルグに遠征をした経緯を以下にご報告申し上げます。



6月14日～20日
埼玉県戸田漕艇場にて二次合宿

その時はまだ皆それぞれどの種目で出場するか未定であり、クオード(4人漕ぎ)とダブルを何度も乗り替えました。毎日午前と夕方の2モーションに分け

て、1モーションあたり18kmから21km漕ぎました。また、U23の日本代表の方々と並漕トレーニングを行いました。
7月5日～16日
福井県久々子湖にて二次合宿
この合宿で私は世界選手権に福井県の小浜水産高校の常盤選手とダブルスカルで出場することになりました。練習は早朝と夕方2モーションに分けて行いました。練習メニューの内容は一次合宿の時と漕ぐ距離は変わりませんでした。しかし、一次合宿の時よりもタイムトライアルを頻繁に行い、フォームチェックを多く行うなどさらに内容の濃い練習になりました。最



初はお互い学校が違うこともあり、合わせるのには易しくありませんでした。しかし、コーチの指導や彼女と何度も話し合いハードなトレーニングに耐えているうちに合うようになりました。
7月22日～28日
埼玉県戸田漕艇場にて三次合宿
国内合宿最後となり、さらに漕ぎに磨きをかけました。
3度の国内合宿を終え、7月29日ドイツのハンブルグへ向けて出発し、7月30日に無事到着しました。現地の最高気温は28度と日本に比べ、涼しく過ごしやすい気温でした。そして本戦の会場へ着きました。そこで外国人選手の様子を見て圧倒されました。身長が高いだけでなく、筋肉の量も明らかに違いました。漕ぎ

を見ていても、高い波や強い逆風の中でもまるで静水の中で漕いでいるかのようでした。その光景を見て本戦前は不安が募る一方でした。予選は1着のみが準決勝へと進むことができる厳しいレースになりました。しかし、常盤選手と結果にこだわらずに自分たちのレースをしようとお互い背中を叩いて気合いを入れて挑みました。



8月7日 予選
結果は以下の通りです。
1位 ハンガリー 7:22:41
2位 オーストラリア 7:27:14
3位 スウェーデン 7:39:75
4位 日本 7:44:64



5位 エストニア 7:52:07
1着にはなれなかったものの、自分たちの自己ベストのタイムが出たので内容としては満足しました。
8月8日 敗者復活
結果は以下の通りです。
1位 ギリシャ 7:25:14
2位 ノルウェー 7:37:39
3位 クロアチア 7:42:11
4位 ラトビア 7:42:77
5位 日本 7:46:49
少しミスをしてしまい口スをつくってしまいました。次の準決勝で3着以内に入れば13位から18位決定戦へ進むことができるの

で、それを目標にしました。

8月9日 準決勝

結果は以下の通りです。

1位 マケドニア

2位 ロシア

3位 スウェーデン

4位 日本

5位 クロアチア

ラストスパートでクロアチアに競り勝つことができた。そして決勝Dで19位から22位決定戦へと進むことになりましたが、そこで再びクロアチアと当たることになりました。

8月9日

19位から22位決定戦

1位 クロアチア

2位 日本

3位 エストニア

4位 ジンバブエ

この日は強風と高い波が立っておりそれにうまく対処することができずクロアチアに負けてしまい、結果として参加22クルー中20位という順位になりました。

今回、世界選手権に出場し世界で戦うには自分が未熟であること、日本代表になれただけで満足してしまっていたこと、世界のトップレベルの漕ぎなど様々なことを見たり学んだりすることができました。

この経験は本当に貴重なものになりました。この経験



を生かし、U23の世界大会、2020年の東京オリンピックで活躍できるようにこれからさらに努力していきたいと思えます。また、家族や先生方、チームメイト、友人、応援をしてくださった方々などへの感謝の気持ちを忘れずにしていきます。たくさんの応援ありがとうございました。

同窓会報「城陵」について

平成13年より創立80周年記念事業に向けて発行が始まった本紙は、多くの同窓生の方々の協力金(1口2,000円)に支えられ、発行を続けてまいりました。昨年度は、会報発行のための協力金の寄付者が700名を超え、今回、第15号の発行が実現できました。改めて、寄付をしてくださいました方々に深く御礼申し上げます。同窓会報「城陵」は皆様の寄付によって支えられております。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会報協力金振込先

会報協力金口座(株式会社同窓会事務局代行口座)

ゆうちょ銀行

岐阜県立恵那高等学校同窓会 □座番号 00170141300048

軟式野球部

18年ぶりの快挙! 県大会優勝!

軟式野球部主将

武藤雄大

軟式野球部は、秋季岐阜県大会で一八年ぶり二回目の優勝を果たすことができました。しかし、優勝という最高の結果の陰には様々な努力や苦勞がありました。

だが、この敗戦を機に、さらに上を目指して努力していきたいと思えます。

海大会出場を決める。

一回戦

恵那 6対2 岐阜聖徳

○市川(二年)、林(二年)

のタイムリーなどで先制、逃げ切る。

二回戦

恵那 4対1 県岐商

○1対1の同点でむかえた六回表、満塁から押し出しで勝ち越し、さらに安藤(二年)の二点タイムリーヒットで県岐商を撃破。

準決勝

恵那 2対1 多治見北

○勝てば海大会出場が決まる大一番。六回まで両投手が持ち味を発揮し息詰まる投手戦に。0対0でむかえた六回裏、一死、二、三塁から四番武藤(二年)が左中間を破る決勝タイムリー。投げては林(二年)が完投。東

海大会では初戦敗退という形になってしまいました。

決勝

恵那 2対1 中京

(延長十四回)

○三回裏に先制されるも八回表にしぶとく追いつき、試合は延長戦に。二死満塁の絶体絶命のピンチも牽制死で切り抜け、十四回に勝ち越し、中京高校相手に粘り勝ち。一八年ぶり二回目の優勝を果たす。



城陵論壇

この年になると、昔のことが時々思い出されます。今から50年ほど前でしょうか、私が恵那高生の頃、今は亡き父が私に「お前は何のために大学へ行こうと思っているのか」と問いかけたことがありました。私が答えて躊躇していると父は、「大学へ行くのは「紳士」になるためだぞ」と一言つぶやきました。その時はその意味を問いかけることもせず、何となく会話は終わったのでした。

同窓会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校の教育活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、創立90周年の記念行事開催の折には多大なるご支援を賜り盛大に挙行できましたこと、重ねて御礼申し上げます。

明治の二人の先達、渋沢栄一と福沢諭吉のことを知るにつけ、「紳士たること」が二人の共通項として浮かび上がってきたのでした。

渋沢栄一は、日本資本主義の父とよばれ、現在の日本の主要産業に連なる500社社を起業し、かつ子孫に美田を残さなかった公の人として知られています。

さて、ご案内のとおり、本校は創立以来この地域を代表する普通科進学校として、地元はもとより、国内外の各方面において活躍できる有為な人材の育成に努めて参りまし



は淡きこと水の如し」という一文は、「徳は孤ならず、必ず隣あり」とともに、栄一の最も好きな言葉であったといえます。

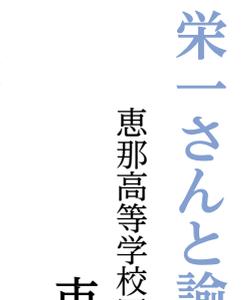
近年、栄一の「論語と算盤」

という本がよく読まれています。ここでは、徳育の重要性とともに、人間の品位の大切さが一貫して書かれています。まさに、「紳士たること」がここには書かれていると思



た。学習活動はもちろんのこと、学級活動や生徒会活動、部活動やボランティア活動など幅広く、自主的・意欲的に取り組むことを大切に、バランス感覚に溢れた心豊かな人材の育成に努めているところでございます。平成27年度大学入試におきましては、例年同様国立大学や難関私立大学に多数の合格を勝ち取ることができ、部活動においても、伝統のボート部や陸上競技部が全国大会に出場を果たしたのをはじめ、野球部が県秋季大会で優勝するなど、多くの部が県大会等の上位の大会に出場しました。強豪校とは違って、練習時間や練習場所に大きなハンディキャップ

においても、全国大会に出場した放送部や文芸部、中部大会で輝かしい成果を収めた音楽部や演劇部は言うに及ばず、どの部においても地道で粘り強い取り組みがなされ、自ら



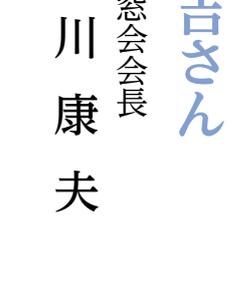
います。

一方、福沢諭吉は、近代日本最大の啓蒙思想家であり、慶応義塾大学の創設者として有名です。諭吉が門下生にあって自筆の書幅「慶応義塾の

目的」が今も残っています。そこには、「気品の泉源、智徳の模範たらんことを期し」と墨書されています。慶応義塾のホームページによれば、「先生(諭吉)が義塾社中に

を負う中にあつても練習方法を工夫するなど意欲的な活動が見られ、たいへん嬉しく思っております。こうした頑張りは運動系部活動ばかりではありません。文化系部活動に

改善のための教育施策に係わる議論が行われています。ここでは、青少年の基礎学力の不足や学習意欲の低下、家庭学習時間の減少などが議論され、すべての高校生に「確



望まれたことの第一は、一言にしていうなら、紳士たれ、淑女たれ、ということであつた」とあります。

面白いことに、紳士たることを説く二人ですが、若い頃

には反骨精神溢れる幾多のエピソードが残っています。たとえば諭吉が若い頃、お稲荷様の社の中をのぞいたら、ご神体の石が入っていたので、代わりの石と入れ替えておい

かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を身につけさせるための方途が検討されています。また、生徒の多様化への対応として、キャリア教育の推進、ICT教育の推進、優

れた才能や個性を伸ばす学習機会の提供、グローバル人材の育成、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学び直しの推進などが取り上げられています。このよ

たら、皆がそれを有り難がって拜むのをおかしがる様子が、福翁自伝に描かれています。

二人からは、近代日本がまさに「坂の上の雲」を目指していた頃の明治人の爽やかな気概を感じるとともに、勇氣、誠実、勤勉、責任感、批判精神、清潔さ等の含まれた日本的な「紳士たること」の意味を再認識させていただいた次第であります。

(本年3月1日の卒業式での挨拶を基に再構成しました。敬称略。)

うに、変化の激しい現代社会において高い志と溢れる意欲をもつ人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造していく力を育む教育への期待はますます高まっています。こうした期待に応えるべく、今後とも地域の優秀な人材をお預かりし、地域社会の担い手として、あるいはグローバルに活躍できる人材として次代を担うに足る逞しい人材を育成すべく、引き続き授業改善、学校改革に積極的に取り組んで参る所存でございますので、同窓会の皆様方には倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

高い志と意欲を育む

高い志と意欲を育む

恵那高等学校校長 鎌田嘉彦

鎌田 嘉彦

創立記念講演 古橋美穂さん(高校37回生) 「個人のキャリアについて」



距離だったそうです。講演の中で、「自分は負けず嫌いだ」とある。「苦手なところにわざと身を置く」などのお話が出てきました。そのような、自分を律することのできる力が当時の部活動や現在のお仕事の中に活かされているのではないかと感じました。

本講演の題目は「個人のキャリアについて」、内容は、将来の労働市場・グローバルな視点をもつこと・仕事をやるうえで必要になる基礎力についての三つでした。

まず労働市場については、今後常用雇用の需要は全体的にはあまり伸びず、雇用の形態も徐々に変化していくと予想されるそうです。正社員の年功序列の形式よりは、契約社員やパートが多くなり、特定の雇用に固定的に所属するのではなく、個人の能力を活か

平成二十六年度の創立記念講演でお話をしてくださった先生は、恵那高校理数科三十七回生の古橋美穂さんです。現在はリクルートホールディングスの中のリクルートジョブズという会社で活躍しておられ、就職されて二十五年になるそうです。講演を通して、多くの女性が憧れるような美しく凛とした力強い女性という印象を覚えました。

三番目に、仕事をやるうえで必要になる基礎力については、対人基礎力・対自己基礎力・対課題基礎力・処理力・思考力を挙げられました。いずれの力も中学生・高校生のうちに身につけていく力で、努力によって内蔵されていく力だそうです。特に対人基礎力に含

まれる親和力においては、学生生活の中のクラスや部活動の仲間、教員、保護者との関わりの中で身につけていくものとし、今いる輪の中の人に対してどうつきあっていくかが大切だと述べられました。

最後にまとめとして、古橋先生が恵那高校の生徒たちに伝えたいことを三点お話しされました。

一つ目は、EQの重要性です。EQは心の指数のことです。自己や他者の感情を知覚し、また自分の感情を制御する能力を示します。仕事をしていく中で、IQよりEQの方が大事な場面も多くあるため、IQとEQのバランスが大切だと述べられました。



認識をする力についてです。他人から見た自分と自分から見た自分は必ずしも一致しません。古橋先生は、他人から見ると「社会的」だと思われがちだけれど、実際には努力してそうしているところがあるそうです。「自分はこうなんだ」と決めつけずに、自分に足りないところがわかった上でそれを補う努力をすることが大切だとわかりました。

二つ目は、客観的な自己

鎌田嘉彦校長退官、谷口陽一郎校長着任

平成25年度から2年間にわたり恵那高等学校の校長を務められた鎌田嘉彦先生は、この春、定年を迎えられご退職されました。鎌田先生は中津川市のご出身で、地元を本当に大切にされました。また、本校の進学実績の向上や、部活動の活性化にも力を注いでこられました。後任には岐阜県立恵那南高等学校校長であられた谷口陽一郎先生が赴任されました。

また、本校の同窓生であり、高校27回生に当たり、恵那高校から東京大学に進学されました。可児高校教頭、岐阜県イベント・スポーツ振興事業団、中津高等学校副校長を歴任されるなど、管理職として中心的な働きをしてこられました。

谷口先生は英語がご専門で、本校で勤務された経験もあります。



2015年度入試 国公立大学 合格者数

2015.3.24現在

合格した主な大学

北海道大学	総合理系・生物重点	合格 1名	岐阜薬科大学	薬学部・薬科学科	合格 1名
岐阜大学	医学部・医学科	合格 1名	岐阜薬科大学	薬学部・薬学科	合格 2名
広島大学	歯学部・歯学科	合格 1名	名古屋市立大学	薬学部・薬学科	合格 1名
名古屋大学	文学部	合格 1名	富山大学	薬学部・薬学科	合格 1名
名古屋大学	経済学部	合格 1名	東京工業大学	第5類	合格 1名
名古屋大学	工学部・機械航空工学科	合格 1名	筑波大学	社会国際・国際総合	合格 1名
名古屋大学	工学部・電気電子情報工	合格 1名	筑波大学	情報・メディア創成	合格 1名
名古屋大学	工学部・物理工	合格 1名	横浜国立	教育人間科学・学校／学校教育	合格 1名
名古屋大学	工学部・化学生物工	合格 1名	早稲田大学	人間科学・人間環境	合格 1名
名古屋大学	理学部	合格 2名	早稲田大学	文・文学	合格 1名
名古屋大学	医学部・保健／作業療法	合格 2名	慶應義塾大学	理工・学門1	合格 1名
名古屋大学	医学部・保健／検査技術	合格 1名	慶應義塾大学	理工・学門5	合格 1名

合格した国公立大学

大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
北海道大学	1	信州大学	16	高崎経済大学	1
筑波大学	2	岐阜大学	6	新潟県立大学	3
茨城大学	1	静岡大学	3	金沢美術工芸大学	1
宇都宮大学	1	豊橋技術科学大学	1	石川県立大学	2
埼玉大学	2	名古屋大学	11	岐阜薬科大学	3
東京学芸大学	2	愛知教育大学	3	岐阜県立看護大学	3
東京海洋大学	1	名古屋工業大学	2	都留文科大学	1
東京工業大学	1	三重大学	2	愛知県立大学	9
千葉大学	1	京都教育大学	1	名古屋市立大学	4
横浜国立大学	1	奈良女子大学	1	滋賀県立大学	2
新潟大学	4	奈良教育大学	1	兵庫県立大学	1
富山大学	2	広島大学	1	岡山県立大学	1
金沢大学	4	高知大学	1		
福井大学	1	佐賀大学	1	合計	105

合格者数 (延べ人数)

2015.3.24現在

国公立四大	105名 (6名は過年度生)
私立四大	314名
短期大学	8名
医療・看護専門学校	8名
その他の専門学校	2名

平成27年度大学入試

国公立大学 105名合格!

名古屋大学	11名	合格
東京工業大学第5類		合格
岐阜大学医学部		合格
広島大学歯学部		合格

平成26年度 Student of the Year賞

生徒16名と3団体が輝く!

今年度本校に在学する生徒の中で、最も顕著な活躍が認められた生徒を表彰する「Student of the Year賞」の表彰式が、平成27年2月27日(金)14時から、恵那高校第一体育館で、全校生徒・職員の前で行われた。

この表彰は、平成19年度から同窓会が行っている事業の一つで、表彰式には阿部伸一郎同窓会副会長の出席を得て、阿部副会長から表彰状・副賞が、代表者に手渡された。表彰された生徒は、次の通りであった。



陸上部、三宅将督君(3年生)は、平成26年度第62回岐阜県高等学校総合体育大会兼全国・東海高等学校総合体育大会岐阜県予選大会走幅跳の部で優勝し、第61回東海高等学校総合体育大会走幅跳の部に出場し、5位に入賞した。

陸上部、園原晶さん(1年生)は、第69国民体育大会陸上競技少年女子B100mHに出場し、8位に入賞した。

水泳部、栗原卓さん(2年生)は、平成26年度第62回岐阜県高等学校総合体育大会兼東海高等学校総合体育大会水泳競技大会岐阜県予選会水泳女子100m自由形に出場し、優勝した。

ボート部、長村和紀君(3年生)は第61回東海高等学校総合体育大会ボート競技男子舵手付クォドルプルで優勝し、平成26年度全国高等学校総合体育大会に出場した。

ボート部、石田光来君(2年生)は、第28回中部高等学校選抜競漕大会男子舵手付クォドルプルに出場し、優勝した。

ボート部、片山颯汰君(2年生)は、第28回中部高等学校選抜競漕大会男子舵手付クォドルプルに出場し、優勝した。

ボート部、林卓人君(3年生)は第61回東海高等学校総合体育大会ボート競技男子舵手付クォドルプルで優勝し、平成26年度全国高等学校総合体育大会に出場した。

ボート部、土屋政智君(2年生)は第61回東海高等学校総合体育大会ボート競技男子舵手付クォドルプルで優勝し、平成26年度全国高等学校総合体育大会に出場した。

ボート部、長谷川駿君(2年生)は第61回東海高等学校総合体育大会ボート競技男子舵手付クォドルプルで優勝し、平成26年度全国高等学校総合体育大会に出場した。

ボート部、朝日崇登君(2年生)は第61回東海高等学校総合体育大会ボート競技男子舵手付クォドルプルで優勝し、平成26年度全国高等学校総合体育大会に出場した。

ボート部、林侑加さん(1年生)は、平成26年度岐阜県高等学校新人大会兼第28回中部高等学校選抜競漕大会岐阜県予選女子ダブルスカルに出場し、優勝した。

文芸部、田中駿君(3年生)は、第38回全国高等学校総合文化祭文芸部散文部門に岐阜県代表として出場した。

放送部、中谷芹奈さん(2年生)は、第49回岐阜県高等学校放送コンテスト朗読部門で入賞し、第61回NHK杯全国高校放送コンテストへ出場した。

軟式野球部は、平成26年

優勝した。

ボート部、成瀬歩美さん(3年生)は、第69回国民体育大会ボート競技少年女子舵手付クォドルプルに出場し、優勝した。また、全日本ジュニア選手権女子シングルスカルで3位となり、U19世界選手権に出場した。

ボート部、伊東佑花さん(2年生)は、第69回国民体育大会ボート競技少年女子舵手付クォドルプルに出場し、優勝した。

ボート部、長瀬歩さん(2年生)は、第25回全国高等学校選抜ボート大会女子ダブルスカルで7位に入賞した。

度第63回岐阜県高等学校軟式野球秋季新人大会で優勝した。

ボート部は、平成26年度第61回東海高等学校総合体育大会ボート競技会で、男子の部総合優勝した。

音楽部は、第67回全日本合唱コンクール中部支部大会高等学校部門Aグループで銀賞を受賞した。

活躍する同窓生

昨年の10月15日の中日新聞に、ノーベル賞を受賞された、天野浩教授が愛知工業大学で講演をされた記事が掲載されておりました。その一部を紹介します。「愛工大には、天野さんにとって赤崎さんと並ぶ、師匠の一人である澤木宣彦教授が在籍。澤木さんは、天野さんとともに名大大学院の赤崎研究室に所属していた当時、青色発光ダイオード(LED)の研究に助言を送った。講義の冒頭、天野さんは「いろいろ教えてくれる先輩がいたので、研究に没頭できた。」と語った。」

天野さんが語ってみえた澤木宣彦教授は、恵那高校の16回生です。澤木先生には、恵那高校の2年生理科に対する講演を毎年行っていたのだいております。今年の講演の中でもノーベル賞受賞者発表時のエピソードなどもお話しいただきました。



澤木先生は、名古屋大学工学部長などを歴任され、現在、愛知工業大学工学部電気学科教授を務められておられます。ご専門は、電子電気材料学、ナノ構造科学、応用物理学などの研究をされておられます。

先生は日々、省エネルギーに貢献するナノテクノロジーの研究を進めるとともに、社会環境に優しい心をもつ研究者や技術者の育成に、励んでおられます。

各支部各回同窓会のお知らせ

土岐市城陵会総会



ついで、「少子化問題について」、「地域における高校の在り方について」など、多岐にわたり講演が行われました。懇親会は、35名の参加があり、互いに懇親を深めました。また、西戸登氏による閉会の言葉あり、和やかな雰囲気の中に会は終了しました。

東京城陵会総会

平成26年6月15日(日)正午から、東京の台場ホテルグランパシフィックにて「第17回東京城陵祭」が開催されました。出席者は77名にも上りました。参加者全員で記念撮影の後、夏目

平成26年6月8日(日)正午から、土岐市「セラトピア土岐2階小ホール」において、「第22回土岐市城陵会総会」が開催されました。平成25年度の会務報告・会計報告・監査報告の後、次期役員及び理事が選出されました。本会からは市川会長、中津川恵那高会からは勝野会長、瑞浪恵窓会からは水野会長、名古屋恵那高会からは鮎澤会長、また、水野正敏県議会議員、鎌田校長が来賓として出席されました。来賓祝辞の後、水野県議会議員による講演が行われました。「リニアに



久さんの司会で会がスタートし、会長の伊藤和徳さんの挨拶の後、市川同窓会長、鎌田校長による祝辞が寄せられました。続いて多治見北高校同窓会東京支部、原田会長はじめご臨席の来賓の紹介が行われました。乾杯の後、和やかな歓談が続きました。途中伊藤登さんの太極拳の演舞、大久保もとさんの歌が披露されました。恒例のくじ引き抽選会も大いに盛り上がりました。終わりに校歌を斉唱し、盛会の中閉会となりました。

名古屋恵那高会総会

平成26年11月22日(土)正午より名古屋栄東急イン2階オークルームにて、第58回名古屋恵那高会総



平成26年11月22日(土)正午より名古屋栄東急イン2階オークルームにて、第58回名古屋恵那高会総

会が開催されました。物故者に対する黙祷の後、「校歌」斉唱、会長挨拶がありました。その後、議事として、会計報告、監査報告、役員選出などが粛々と行われました。来賓挨拶として、市川同窓会長、鎌田校長の挨拶があったのち、元南極観測越冬隊員の鈴木剛彦様の講演がありました。「南極観測越冬隊に参加して」と題して、鈴木様の南極での貴重な体験のお話が、ユーモアを交えながら講演されました。懇親会は、中津川恵那高会会長勝野様の乾杯のあいさつによりはじまり、余興などが催され、終始和やかに会が進みました。「城陵歌(大会の歌)」等を恵那高校の元校長である、石井新太郎先生を中心に、参加者全員で合唱しました。

中津川恵那高会(恵蘇会)総会

平成26年11月29日(土)18時より中津川市「勝宗」にて、第61回中津川恵那高会(恵蘇会)総会が開催されました。勝野会長の挨拶の後、来賓の挨拶等がありました。

総会の議事として活動報告、会計報告、役員改選と進みました。勝彰氏が新会



瑞浪恵窓会総会

本総会は、7年間の休止後、平成23年度より再興さ



れました。瑞浪恵窓会の総会は、平成27年3月22日(日)18時から、地域交流センター「ときわ」において開催されました。開会の言葉、黙祷、校歌斉唱の後、瑞浪市長でもある水野光二瑞浪恵窓会会長の挨拶がありました。続いて来賓祝辞として市川同窓会長の挨拶があり、来賓紹介がありました。平成26年度の事業報告および会計報告がされました。平成27年度事業計画および予算等予定された議事は滞りなく承認されました。鎌田校長による恵那高校の近況報告がなされました。その後、懇親会が開催され盛会の中閉幕となりました。

東京城陵会月例会

毎月行われている親睦会の月例会は今年(2015)1月で通算第368回になりました。そして諸先輩方の縁あつて月例会の会場は東京銀座7丁目にある「レストランライオン」で第1回「東京恵中会」(平成15年東京城陵会に変更)より実施しております。年数では約33年を経過しており、第1回より一度も月例会を欠かすことなく続けてきた諸先輩方に頭が下がります。



す。また、それを欠かすことなく現在に引き継いでいることに、在京の東濃地区の他の高校OB会の皆さんも驚いております。現在毎月の月例会に20〜25名の出席者ですが、さらに多くの若い同窓生の皆さんに参加して戴ければ話題も多く、より一層楽しい会になると思います。特に年齢に関係なく、男女問わず若い層の皆さんの出席を希望しております。「なぜこんなに長く続けられるものなのでしょうか」との質問もありますが、出欠連絡の必要もなく、肩の凝るような議題もなく、遠慮なく気ままに参加できて、昼の時間に2、3時間飲み食いして仲間と語り合い、母校の話題、あるいは郷土の情報、身近な話など

で楽しく過ごしております。そして月例会最後に「東京城陵会」と「恵那高校歌」を斉唱して閉会します。このような集まりですが、在京の恵那高校卒業生の皆さんとの仲間作りにも役立っており、しいては伝統の恵那中学、恵那高校卒業生の皆さんのコミュニケーションの場として保っていることに「東京城陵会」として偉大さを感じております。

この様な月例会ですが33年以上も続いており、「継続は力なり」の通り、会を続けることも、リラクセスして出席を続けることも、必ず将来の「力」になると思

います。気楽に集まり、故郷の弁で語り合い、若い皆さんのエネルギーも取り入れて郷土の先輩方と一緒にコミュニケーションを図り、更なる会の発展に役立つようにしていきたいと思

っております。また年1回の「東京城陵祭」には恵那高校の校長先生、同窓会長にも同席を戴いております。是非若い皆さんのご出席をお待ちしております。

東京城陵会
会長 伊藤和徳
(高卒13回生)

平成27年1月2日に恵那高校ソフトテニス部OB・OG会が行われました。寒い天候にもかかわらず、20名を超えるOB・OGが参加し、ソフトテニスの団体戦を行いました。現役の恵那高生を交えてペアを組んだり、チームメイトに声援を送ったりして勝敗に一喜一憂しながら、活気溢れる中で交流を深めました。毎年行われる行事ですが、近年では二十代の若いOB・OGも参加するようになり、和やかな雰囲気の中開会しました。

恵那高校ソフトテニス部 OB・OG会

旧制中第23回生の同級会が、平成12年7月に盛大に開催された記念に、同級会報を発行しようということになり、早速、同期から原稿を集め、文集『はなのき』の発行となりました。

中学23回生の同級会報

内容は、政治・宗教以外の日常生活、想い出、旅行、海外生活、健康法…等を題にした原稿が集まり、購読者から期待され、年4回発行して平成26年12月末の発行で15年続けることが出来、第60号を発行致しました。八十路を迎えた約30名の同期が購読しておりますが、この冊子を通じて友の様子をうかがうことが出来、互いの絆が一層深まっております。



来るか、その先は霞の中ですが、中第23回生同期の情熱が燃える限り続けて参ります。

編集・発行責任者
小林正喬(東京城陵会会員)

※この紙面では、同窓会の各支部や学年同窓会の様子などを掲載しています。

今年度開催予定の同窓会がありまして、原稿と写真などを、恵那高校内同窓会事務局(〒509-1720 1・恵那市大井町1023番地の1)までお送りください。

ボート部 春の全国選抜大会で初優勝!!

速報です。

の世界ジュニア選手権代表選考会男子舵手付フォア以下の快挙です。優勝メンバーは、部長の朝日崇登、土屋政智、片山颯汰、石田光来、長谷川駿の5人で、いずれも2年生。大会前地元静岡県版の中日新聞で優勝候補の筆頭にあげられ、決勝のレースでも前半に2位以下に大きく差をつけて勝負を決めるといって横綱相撲で、来年度の全国インターハイ優勝にむけて期待は高まるばかりです。



今まで何度か全国大会での優勝実績をもつボート部ですが、この3月20日に浜松市天竜漕艇場で行われた第26回全国高校選抜大会で、男子舵手付クオドルプルという種目で初の全国制覇を果たしました。この種目は、4人の漕手と1人の舵手による団体種目で、恵那高ボート部にとって団体種目での全国優勝は、昭和39(1964)年の全国インターハイ男子フィックスと、昭和61(1986)年



全国選抜大会決勝のゴール前、他を引き離し独漕する恵那高クルー